

5 班 都農町 地域資源マップ

①町長・住民の方との交流



この日は坂田広亮町長も来られていて住民の方々とお話しされながら食卓を囲んでいた。住民の方々が帰られたあとに私達も坂田町長とお話しさせていただいた。坂田町長の考える都農町の資源は「つながり」である、とおっしゃっていた。都農町は自治体制度がしっかりしており、れんげ食堂のように、地域の方々と交流できる場がある。坂田町長はそんなつながり、支えあいを広げたいとおっしゃっていた。その意図としては、有事の際のために、交流の場において家の場所などを共有することで助け合いができることを挙げていた。というのも、令和6年能登半島地震から3か月がたった4月7日に、都農町役場職員の方々が家屋調査として出向いた際に、状況が1月1日のままであり、輪島市民の方の「地域コミュニティが強ければ・・・」という声も理由の一つとおっしゃっていた。東日本大震災において多くの住民が助かった地域は、近くに高齢の方が住んでいた場合、一緒に避難していたという。その点を考えると交流の場を設け、そこに様々な方が参加し、つながりの輪をひろげることは、災害時の対策を兼ねているといえるだろう。

①れんげ食堂



都農東小学校の校長先生にお声がけいただき、れんげ食堂に参加させてもらった。れんげ食堂を開催しているれんげの会は、平成27年に発足した組合である。このれんげ食堂では、様々な年代の住民との交流の場にする、料理を100食用意することが目標である。また、来てほしい人の狙いとして、年齢を問わず一人暮らしの人や、精神的に問題を抱えている人、毎日1食しか食べられないような子供を挙げており、距離的に来るのが困難な方のために3つの地区ごとに分けて1か月に1回、3か月で1周できるようにしているとのことだった。れんげの会は学校でチラシを配ったり、回覧板を用いたりして、れんげ食堂の日時や場所を伝えている。現在の問題としては、ターゲットとしている人がなかなか来てくれないことを挙げていた。その対策としてその近くに住民の方からの誘い等で、少し来てくれる人々も増えると考えた。

②(株)原田 加工センター

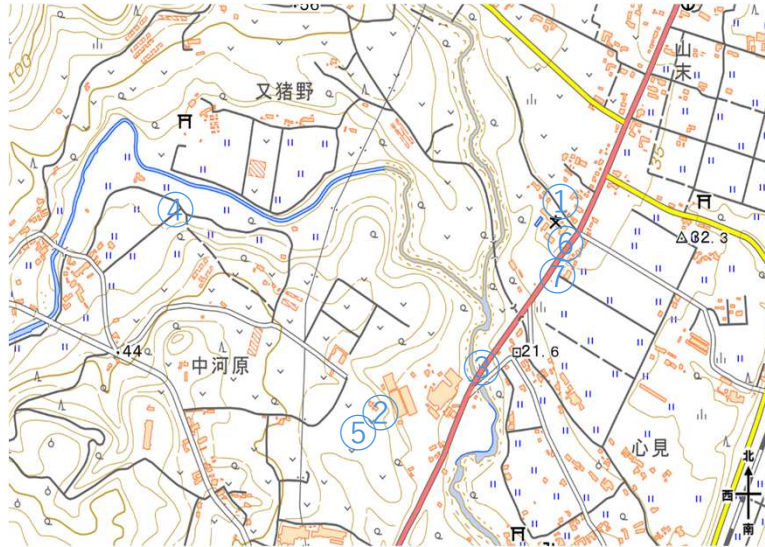


原田加工センターやグリーンバイオマスファクトリーといった新しく会社ができたおかげで、道路の幅が広くなったり、地区がお金をもらえるようになったりした。地域の方ももっと企業の方を呼びたいとおっしゃっていた。原田加工センターは全体的に黄色を多用するデザインで明るい雰囲気を感じられた。会社のトラックが毎日何台も通るようになり、地域住民の方は、今までにない光景を見ることが増えたと話した。働き場所ができたおかげで、新しい住民も増えたらいい。このように会社によって移住者、移住者が住む住居、税金などに繋がってプラスの効果があればよりよくなるだろうと考えた。

③バス停



元々は宮崎交通のバス停だったが、現在はコミュニティバスの停留所になっているようだ。初めて来た人は宮交バスと勘違いしてしまいそうだった。また、地域でイベントがある際に行く方法がないという意見もあった。交通の便の悪さにより、参加者が少なくなることも考えられ、地域のつながりが弱まることになってしまう可能性もあるのではないだろうか。



④⑤地図に無い道



新しく会社ができたことにより、トラックが通ると思われる道と、農作業を行うためにできたと思われる畦道など、地図に載っていない道ができていた。地域住民の方によると、会社ができたことにより交通の便がいくらか改善されたという意見があった。地元で会社が出来ることを嫌がる地域住民という話もよく聞く話だが、この東都農の場合はお互いがWin-Winのつながりを保っている良い例だと思った。

⑥自動販売機



私たちが探索した範囲では、この場所以外で自動販売機を見つけることは出来なかった。そのためこの範囲に行くときには飲み物の持参するかこの自動販売機で購入することが必要であると感じた。しかし逆に自動販売機が1箇所しかないことでそこ子供が集まるところを何度か見かけた。この自動販売機が住民のつながりを深める場所になっていると感じた。

⑦石井記念尾鈴保育園



2班が同う予定であった石井記念尾鈴保育園に急遽同行させていただくことになった。昔あった古い保育園は民間委託した後、今は町が管理しているとのことだった。保育園の活動として、園児が高齢者の方々に歌を歌うといったイベントもあり、交流の場を作っている。保育園卒園後は都農にある小学校に進学したり、都農にある県内唯一の分校に進学したりなどが多く、町外に進学する子供も一定数いる。また、正式ではないものの災害時の避難所の役割も果たす。建物は比較的新しく、海拔20mあり、日ごろから有事の際の貯蓄も行っている。園児だけでなく周りに住む方々にも心強い場所だ。このように地域住民との交流の場があったり、有事の際の対策の場になっていたり保育園が東都農のつながりの場所となっている。

読み手へのコメント

私たちの班は、坂田町長がおっしゃっていた都農の地域資源である「つながり」を、東都農のさまざまな場所で見聞きました。それをテーマに地域資源マップを作成した。一見、つながりとは関係がなさそうな自動販売機や道路なども、住民の方々に話を聞いてみると、つながりの場となっていることが多く、非常に興味深かった。今回のフィールドワークで多くの刺激をもらい、新たな学びを得ることができた。